

## 前期前半終了時朝会でのお話(令和4年7月20日)

日本から北西に8000キロほど先に、ウクライナという美しい国があります。  
その国は、西隣にあるロシアからの侵攻を受けて、もう5か月間も戦争状態にあります。  
戦争状態になってしまった頃は連日のように、攻撃されて瓦礫となった街がテレビに映し出されていましたが、この頃は、あまり目にしなくなりました。  
だからと言って、戦争状態でなくなったわけではありません。  
今もなお、ウクライナのどこかで、たくさんの人が辛い思い、悲しい思いをしています。  
皆さんには、是非そのことに思いを馳せてもらいたいと思っています。

なぜ、前期前半の最後の日にこんな話をするかという、  
皆さんの住むここ熊谷も、かつて戦争で辛く悲しい思いをした場所だからです。  
これから話すお話はちょうど1年前にもしましたので、聞いた覚えがあるかもしれません。  
大事なお話なので、よく聞いてくださいね。

ここ熊谷は太平洋戦争といわれる大きな大きな戦争の終わる前の日、ひどい空襲に遭いました。  
77年前の1945年8月14日のことです。  
空襲というのは、戦争の相手が飛行機から爆弾を落とすことを言います。

8月14日の真夜中に、熊谷の町の中には、恐ろしいほどの爆弾が空から落とされました。  
飛行機の部品を作る工場が熊谷にはたくさんあったからということです。  
熊谷の町は瞬く間に炎に包まれ、3分の2が焼かれました  
熊谷の中心地には星川という川が流れていますが、町が焼けて熱いと川に人が多く押し寄せました。  
そこに川の両方から火が迫り、命を落とした人もたくさんいました。  
そうしてここにいる皆さんの数よりずっと多い266人の人が一夜で亡くなり、3000人ものがけがをしました。

とても恐ろしいことです。

それから長い月日をかけて焼け野原になった町をきれいに整えて、今の熊谷があります。  
毎年8月16日には、星川では灯籠を流して、この時亡くなった人たちの霊を慰めています。

今皆さんが当たり前のように穏やかに暮らすここ熊谷は、  
悲しい出来事を乗り越えてそれでも強く生きていこうとする人々の努力で出来ています。

長いこれからの夏休みには、遠くウクライナに思いを馳せ、彼の地の皆の幸せを祈るとともに、  
自分の生活するこの地域を改めて知ってみるよい機会にしてもよいかもしれません。

健やかで楽しく、意義のある夏休みを過ごしてください。

これで校長先生のお話はおしまいです。